

2026年度(総合型選抜)AO選抜入学試験 経済学部「英語重視方式」

1. 実施状況

(1) 志願者数、合格者数等

学科・学域・専攻等	志願者数	一次合格者数	最終合格者数
経済学科・国際専攻	32	18	11

(2) 本入学試験の目的

経済学部国際専攻では、高度な外国語運用能力とグローバルな視野の育成を教育の主軸に置く。本専攻志願者を対象にAO選抜入学試験「経済学部『英語重視方式』」を実施し、以下のような資質と意欲を持つ志願者を選考した。

- ① これまでに、学習や各種活動（生徒会活動、課外活動、地域活動、国際交流等）に熱心に取り組み、それらを通じて外国語運用能力、コミュニケーション能力、問題発見・解決能力を身につけるとともに、立命館大学経済学部での強い学修動機を持ち、入学を熱望する人。
- ② 入学後は、経済学部での学修と各種留学制度等を利用し、積極的に海外での学びを志向するとともに、卒業後、国際的視野で活躍する将来像を志望し、その可能性を持つ人。

英語能力に関する所定の要件を含めた出願資格を満たす志願者に対し、書類審査（第1次選考）、個人面接（第2次選考）を実施し、その結果、志願者数は32名、第1次選考合格者数が18名、第2次選考合格者が11名となった。

2. 試験内容

(1) 第1次選考

第1次選考に際して、出願者には、入学志願票、調査書等、出願者申告書、志望理由書、英語能力試験の証明書のコピーの提出を求めた。

出願者申告書では、

- ① 正課（学習）における取組状況や成果を踏まえた自己分析、
- ② 立命館大学経済学部への志望動機を持つに至った各種活動経験の記述を求めた。

志望理由書では、

- ① 経済学部経済学科国際専攻で入学後に学びたいテーマと本入試方式への出願に至った動機を含めた志望理由、
- ② 大学卒業後の国際的視野での理想とする自らの将来像についての考えの記述を求めた。

(2) 第2次選考

第2次選考では、出願書類に基づく個人面接において、志望動機、各種活動経験、入学後に学びたいテーマ、経済学分野に関する興味・関心、大学卒業後の理想とする自らの将来像についての質疑（日本語と英語）を行った。

3. 出題意図

(1) 第1次選考

経済学部経済学科国際専攻への志望動機を持つに至った諸活動、経済社会への興味・関心、グローバルな視野でのキャリアビジョン、経済学部経済学科国際専攻への志望動機の強さについて、的確に伝えられる文章力と論理力を確認することを目的とした。

(2) 第2次選考

出願申告書や志望理由書に記述した内容を自分の言葉で分かりやすく伝える力、コミュニケー

ション能力を確認することを目的とした。英語運用能力の確認のため、一部、英語での質疑を行った。

4. 評価ポイント

(1) 第1次選考

「出願申告書」、「志望理由書」の全体で、論理的で説得力のある文章を書く力を見た。志願者が、これまでの活動状況をふまえ、経済社会への興味・関心、志望理由、大学卒業後の理想とする自らの将来像、また、自身の特徴、人柄について、正しい日本語で説得的、論理的、具体的に書き表すことができているかを評価のポイントとした。

(2) 第2次選考

経済社会への興味・関心、志望理由、各種活動経験、大学卒業後の理想とする自らの将来像に関する質疑に対して、自分の言葉で分かりやすく、的確に返答ができるかを問うことで、日本語と英語でのコミュニケーション能力の高さを評価のポイントとした。

5. 解答状況

(1) 第1次選考

「出願申告書」と「志望理由書」において、高い評価を受けた出願書類が押さえていたポイントは以下の通りである。

- 大学において学びたいことと将来やりたいこと、また、そう考えるようになった理由が論理的に展開されていること。これまでの生活や留学など身近な経験で感じた疑問点をきっかけとして書かれている文章に、興味深いものが多くあった。
- 「経済学とはどういうものか」という点を理解していること。一般向けに書かれている経済学関連の書物を読んで調べているだけでなく、内容を理解し自らの目標と関連付けていることができている。なぜ、経済学部を志望するのかを自問するためにも、しっかり考えることが大切である。

上記の点を押さえた書類は、大学進学後の学びにおいて必要となる、自ら進んで調べる、自らの意見としてまとめる、そしてそれを人に伝えるという能力が志願者に備わっていると評価することができた。

AO選抜入学試験選考において、これらの書類は志願者の資質を伝える数少ない手段である。その重みを意識し丁寧に書くことが大切である。そのためにも、出願書類作成にあたっては、何度も推敲することが必要であり、他の人に読んでもらうのも良いことである。経済学部は、自ら学ぶという意欲をもってチャレンジする人材を求めている。

(2) 第2次選考

本専攻を志望するに至った学習や各種活動経験に関しての質疑においては、工夫を凝らした自主的な活動に対して高評価を与えたが、それは一部に留まった。能動的に活動を行ってきた志願者が減少している。入学後に学びたいテーマに関しては、さまざまな資料をしっかりと調べた受験生もいる。その一方、基本的な情報の確認を怠っていたり、学びたいテーマに対する受験生自身の理解が未熟であるが故に、少しでも詳しく尋ねると的確に回答することができなかつたりする志願者もいた。なお、英語での質疑応答に関しては、ほとんどの志願者が想定していた基本的な問いにはそつなくこなせており、総じて見ると、英会話能力は高かった。しかし、経済社会の問題や経済学とは何かについて考えられていないが故に、経済学を学んで将来にどう活かすのかを、十分に説明をすることができず、その英会話能力を活かせていない志願者もいた。

6. 次年度の受験生へのアドバイス

立命館大学経済学部国際専攻AO選抜入学試験では、優れた英語運用能力のみならず、本学部で経済学を修めるのに必要な能力と経済社会に対する高い問題意識を有している人物を受け入れることとしています。従って、高校等における日々の学習活動の中で、大学生活を有意義に過ごす

ことができるための総合的な力量を培うことが重要です。自身を成長させるような様々な活動に取り組む中で、経済社会に対する問題意識を磨くようにしてください。世の中で起こっていることは決して他人事ではなく、自身にも関係のあることであるという意識を持つことが重要です。そのためには、日常的にニュース・新聞に接し、経済社会で起こっている問題について考え、また、理解を深めるために自主的に調べることが必要です。そして、自身の意見を文章にまとめたり、他の人と議論をしたりするなどして、伝える力を身につけなくてはなりません。これらの力は、出願書類を何度も推敲する中でも学習し体得することができます。十分な時間をとって、皆さん自身が大学でやりたいことは何なのかをしっかりと考えて書類を作成してください。

英語に関しては、基本的な語彙や文法を用いて、自分の言葉として意見が伝えられるようにスピーキングやライティングにも力を入れて学習することを勧めたいと思います。ただし、本学部で学びたいこと、また将来したいことについてしっかりとした意見が持てていないようであれば、伝える内容が伴わず、せっかくの英語力も生かすことができません。経済学とは何か、そして、なぜ経済学を学びたいのかをしっかりと考えることが必要です。

入学すると大学生活という貴重な時間を投資することになります。皆さんにとって、それが有意義であるためには、大学において、何を学びたいのかを確認することがとても大切です。また、学修する能力を入学までに備えておく必要があります。大学は、人生において、通過点であり、貴重なステップアップの機会であり、この機会を活かすのは、入学前の準備であることを忘れないでください。

以上